

放る「銭こ」に願いを込めて

1月16日、上田代地区では「ジェンコマキ」が行われました。これは、牛馬の神様とされる蒼前様（そうぜんさま＝馬頭観世音菩薩）に牛の健康や家内安全を祈願する行事で、神棚で清めた縁起のよい小銭や米などを家の前で撒き、集まった人たちが縁起物として拾い集めます。

この行事は蒼前様の年取りにあたる16日と決まっています。蒼前様を祀っている吉田専藏さん（上田代地区総代）宅から始まります。

今では上田代地区のみで行われていますが、吉田さんが子供の頃は他の集落でも行っていたとのこと。

今年は土曜日ということもあり、各家のお孫さんたちも参加して賑やかなジェンコマキとなりました。

集まった皆さんからは、「年々子供が少なくなって寂しくなっている。」「こども園の子ども達が参加してくれればいいなあ」という声もありました。

地域特有の行事は伝統芸能と同じく守り伝えて欲しい文化です。ジェンコマキも、たくさんの子供たちが笑顔で走り回る風景が戻ってくることを期待したいものです。



新年の挨拶をする吉田専藏さん



艶やかに祈る 豊穡と家内安全

1月15日から16日にかけて、村内各地では「田植え餅つき踊り」が行われました。

女性たちが色鮮やかな衣装に身を包み、一年の豊穡と家内安全を祈って集落内を門付けします。

「田植え餅つき踊り」は現在、集落の婦人会を中心に伝承されていますが、古くは江戸時代から行われていたと考えられています（東通村史より）。年々、担い手不足などで門付けして歩く集落も減ってきてはいますが、一方で、若い世代へ謡や作法などをしっかりと伝承している集落もあります。

近年は民俗芸能としての価値や雪景色に映える衣装が評判となり、アマチュアカメラマンやツアー客が押し寄せるようになりましたが、本来は地域に根付いた伝統行事。門付けでは一軒一軒丁寧に声がけをしながら、時には賑やかに、そして艶やかに、集落の五穀豊穡と家内安全を祈って舞っていました。



雪が舞う中での餅つき踊り（目名）

もちつき踊りだけではなく、田植え唄（中央）も重要な伝承です（石持）